

## 各委員から事前にいただいたご意見等

子育て満足度日本一に向けた県政への期待や、委員ご自身または委員が所属する各団体等での今後の取組などについて頂いたご意見等をまとめたものです

委員名	ご意見等
<p><b>荒木委員</b> (大分県児童養護施設協議会)</p>	<p><b>キーワード：「子育て満足度日本一に向けた所属の取り組み」</b></p> <p>1 社会的養育推進計画の着実な遂行</p> <p>① 森の木本園の施設改修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の高機能化、多機能化を組み入れた施設改修計画の策定と実行</li> </ul> <p>② 一時保護所「明日葉」の機能充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間保護児童数 延べ41人 延べ1,050日（過去最高）</li> <li>・一時保護退所後の「ゆずりは」と連携した在宅支援</li> <li>・原籍学校への通学による学習権の保障</li> </ul> <p>③ 児童家庭支援センター「ゆずりは」の相談活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童家庭支援センター指導委託措置による児童相談所との連携強化</li> <li>・親子関係再構築事業への取り組み</li> </ul>
<p><b>井口委員</b> (大分放送報道部記者)</p>	<p><b>キーワード：「仕事と子育ての両立支援にむけて」</b></p> <p>① 年度末に近づくにつれて保育所の待機児童が増加傾向にあるため、私も周りにも数名認可保育所に入れなかった人がいます。年度初めは入所しやすいため育休を伸ばす人も多いのですが、子どもが1歳になったら働こうと考えていた人たちの就労機会を阻害する要因になっています。私の周辺では認可保育所を希望しているものの入所できないため3月末までは認可外保育所を利用する人も少なくありません。一方、県の子育て支援では第2子の保育料が無料となっているそうですが、認可外では適用されないということで、毎月5万円ほどの保育料負担が必要になっているそうです。保育所に入れるかどうかを含めて、生まれた月によって行政支援が異なっているため、何月に産むかを検討する人もいると聞きます。理想は何月に生まれても心配なく保育所には入れて公平に支援が受けられることだと思います。</p> <p>② 小学生の放課後児童クラブについてですが、大分市などでは希望者の多い地域だと4年生以降入所が厳しいクラブもあります。うちの子も来年度4年生になりますが、現在通っているクラブでは入所できるか不透明といわれています。高学年になれば授業時間が長くなるため少しの時間であれば家で一人で留守番というのも可能ですが、夏休みなど長期休暇の際にどうするかがネックになっています。小学4年生の子を朝から晩まで家に一人で留守番させておくことには抵抗があるため、夏休みや冬休みなど長期休暇の時のみ利用できるクラブのようなものがあればありがたいと思います。そうすれば、母親などがパートで働いていて普段は児童クラブを利用する必要のない子たちの長期休暇の受け皿になるのではないかと思います。</p>

委員名	ご意見等
<b>太田委員</b> (公募委員)	<p><b>キーワード：「保育園から放課後児童クラブへのシームレスな接続」</b></p> <p>① 保育園は共働き家庭が利用し、放課後児童クラブの利用者についてもほぼ同様である。</p> <p>② 放課後児童クラブは、新小学生を小学校の入学前に受け入れることが多い。</p> <p>③ 保育園において、発達障害などを抱えながら集団保育を行っていた児童の放課後児童クラブへの接続が難しいのが喫緊の課題となっている。</p> <p>④ 放課後児童クラブにおいて、発達障害などの配慮が必要な児童を事前情報がないまま受け入れてしまうと、当該児童はもとより、他の児童に対しても大きな影響を与えてしまう事例が散見される。これは、保育園から児童の個人情報等を提供してもらえる体制がないのが原因となっている。</p> <p>⑤ 放課後児童クラブの支援員が保育園に入り、発達障害などを抱えながら集団保育を受けている児童の支援に関わることで、当該児童には10年近く同じ支援員が関わっていくため、幼児から児童期までのシームレスな支援が可能となる。</p> <p>⑥ 弊社では、今後、保育所等訪問支援事業を展開し、保育所と放課後児童クラブのシームレスな接続の一助となる活動を始める予定。</p>
<b>岡田委員</b> (大分大学高等教育開発センター)	<p><b>キーワード：「施策・取組間の連携、横断的展開」</b></p> <p>子育てで満足度日本一を目指す取組それぞれについては、熱心に取り組んで頂き、成果も挙がりつつあるように感じる。</p> <p>課題としては、それらの施策が個別に実施されている側面があるので、施策間の連携や行政施策と地域団体等の取組との連携など横断的な展開を図ることが必要と考える。</p> <p>たとえば、保育所等の待機児童解消の取組と合わせ、保育所の取組支援のための地域団体組織等との連携、子育ての手が離れた世代の子育てサポーターの組織化などこの取組を横断的に支援できる仕組みづくりが期待される。</p>
<b>川野委員</b> (大分県商工会議所連合会)	<p><b>キーワード：「育児休暇制度の取得の推進について」</b></p> <p>■大分商工会議所としての取組み</p> <p>(1) 支援メニューの周知</p> <p>企業向け育児給付金制度については、まだまだ認知されていない面があるため、毎月発行する所報「エール」や部会、委員会等諸会議において、所属会員約6,000会員事業所に対して、育児休業を取得する際の最大30万円を支給する「大分県両立応援給付金制度」などを紹介するなど、大分県の支援メニューを周知している。</p>

委員名	ご意見等
	<p>(2) 男性の育児休暇取得制度の周知</p> <p>当所の会員企業では「男性は仕事をするのが当たり前」という意識がまだまだ根強く、育児や家事は分担して行うものと理解している人は少ない。男性が育児休暇を取得しやすい企業環境を整えるとその企業の労働生産性を高める効果もあり、さらに、企業イメージのアップに繋がり、求人採用の際に、若い世代へのPR効果も期待できることから周知している。</p> <p>■大分商工会議所のこれまでの取得事例</p> <p>(1) 男性職員（第1子） 平成25年1月 育児休暇取得</p> <p>(2) 女性職員（第1子・第2子・第3子） 平成22年9月 育児休暇取得 平成25年8月 育児休暇取得 平成31年6月 育児休暇取得 平成26年7月 育児短時間勤務取得 平成28年4月 育児短時間勤務取得 令和2年4月 育児短時間勤務取得</p> <p>※大分商工会議所では、産前産後休暇14週間 特別休暇を設けている</p> <p>■参考</p> <p>婚活イベント「あなたに会いエール」大分商工会議所女性会 第1回を平成23年5月に実施し、令和2年2月まで合計11回開催 参加者数総数 703名 カップル成立48組 となっている</p>
<p><b>神田委員</b> (大分県保育連 合会)</p>	<p><b>キーワード：「コロナ禍における子育て支援」</b></p> <p>国内の新型コロナウイルス感染が発生し一年が経過しました。その中で保育現場は重要な立場であると理解して努力してきました。最近気になるのがコロナが原因での離婚等です。県外からの離婚理由家庭の受け入れはもちろんですが、子どもの精神状態が心配されます。園児であれば異常に大人への愛情を求めて接したり、精神的に不安定になったり、小学生であれば部屋に引きこもってしまうなど多くの事例があげられます。私たちは今まで通り子ども達の受け入れをするだけでなく、今まで以上家庭支援に力をいれなければならない時を迎えている気がします。保護者面談を小まめにしたり、必要であれば家庭訪問を保育園であっても行うなど、保育者としてケースワーカーとしてのスキルが必要に感じます。</p>

委員名	ご意見等
	<p>また、まだ感染の終息が見通せない中、研修の持ち方も問題の一つです。キャリアアップ等の研修がなかなか進まず、今はオンラインを含めた研修を行っていますが、オンライン研修を受ける環境がない施設も多々あります。早めに環境を整え全ての園で研修が受けられるよう整備していただきたいと思います。保育連合会として、来年度も今と同様、オンライン研修、オンラインと対面のハイブリット研修を考え必要な研修は前向きに行ってまいります。</p>
<p><b>酒井委員</b> (大分県小学校長会)</p>	<p><b>キーワード：「つなぐ」</b></p> <p>横のつながり…「地域とともにある学校」</p> <p>小学校では、今年度から新学習指導要領が施行され、将来にわたり持続的・発展的な教育活動が行われるよう、「地域とともにある学校」への転換に取り組んでいます。コミュニティ・スクールを導入し、地域の様々な立場の方々に学校運営協議会の委員になっていただき、まず、どのような学校や地域を作りたいか、どんな子どもを育てたいかを熟議して目標を共有することから始めています。その目標達成に向けて、学校・地域・家庭が分担して行うこと、協力して行うことなど、取組内容を整理して実際の活動につなげていけるよう今後も取組を進めていきます。</p> <p>縦のつながり…「幼保小連携」「小中一貫教育」</p> <p>幼稚園・保育園から小学校に入学した子どもたちが、スムーズに学校生活に入っていけるよう、新入時のスタートカリキュラムを作成しています。また、入学に不安を抱えている子ども・保護者とは就学前教育相談を実施したり、幼稚園・保育園との連絡や引き継ぎを丁寧に行ったりして、連携を進めています。</p> <p>また、中学校区の小中学校が連携して教育活動をしていけるよう、小中一貫教育を推進しています。中学校区で生活や学習のきまりを共有したり、進学するにあたっての丁寧な引き継ぎをしたりすることで中 1 ギャップの解消に取り組んでいます。また、各中学校区の子どもの実態からつきたい力を協議し、9年間を見通した教育課程を作成しています。</p>
<p><b>塩月委員</b> (日本労働組合総連合会大分県連合会)</p>	<p><b>キーワード：「勤務労働条件の改善」</b></p> <p>長時間労働の是正と賃金引き上げによる、育児時間の確保と若者定住</p>

委員名	ご意見等
<b>土谷委員</b> (おおいたホームスタート推進連絡会議)	<b>キーワード：「こどもを増やすためのひとつの案」</b> “効果があるかもしれないと思うことを何でもやってみる。”
<b>富高委員</b> (つるおか子どもの家)	<b>キーワード：「子どもをまんやかに」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童クラブの存在が地域のどの子にとっても「困った時」の居場所になれるよう、施設の整備（1人あたりの広さ、台所、洗面所等）をすすめてほしい。コロナのような思いがけないことにも、対応できる場所でありたい。</li> <li>● ファミリーサポートセンターで、障がい児の受け入れがより安全に安心してできる体制づくり。</li> <li>● 子どもへの虐待や子どもの自殺をゼロにする取組。</li> </ul>
<b>中垣委員</b> (大分大学 福祉健康科学部 学生)	<b>キーワード：「子育てへの意識の高まり」</b> 子育て満足度日本一に向けた県政への取組を知るため、大分県庁のホームページを拝見させていただきました。調べていく中で、子育て満足度日本一の実現に向けて取組が促進されている、家庭訪問型子育て支援(ホームスタート)について非常に興味をもちました。調べていく中で、大分県のホームスタート事業の設置数は全国的にみても多く、12か所が県内の地域に広がっているということを知りました。(2021.01.25時点) ホームスタート事業の設置数が多いように「大分県では誰でも気軽にサービスを受けられるような支援がある」という認知を、子育て世帯だけではなく、高齢者世帯や学生など、あらゆる世帯に広げることによって、大分県民の子育てへの意識がプラスに変わっていくため、これまでの会議でも意見が上がっていたようにSNSの活用は重要であると感じています。 様々な子育て支援が大分県では講じられているため、県民の子育てへの関心が高まるのではないかと考えます。
<b>姫野委員</b> (大分県民生委員児童委員協議会)	<b>キーワード：「子育てを地域で支援」</b> 近年の子育て環境は、核家族化に加え地域との関わりの希薄な状態の中、子育て中の姿が周りに見えづらくなっている。地域に開かれた子育てサロン活動を通して、子育て家庭が孤立しないよう、親同士の交流や情報交換、地域の人たちとの触れ合いなど周りに関われる環境を整え、安心して地域で子育てができるよう支援する。

委員名	ご意見等
<p><b>平井委員</b> (公募委員)</p>	<p><b>キーワード：「子どもの声を聴き心のSOSを受けとめる」</b></p> <p>チャイルドラインは電話やチャットに届く子どもの「声」に耳を傾け気持ちに寄り添っています。コロナ渦で活動を自粛せざるを得ない状況の対応として、子どもたちが一方的に気持ちを吐き出すことのできる「つぶやく」を開設しました。相手にわかるように話す（書く）必要がないから感情が吐き出しやすく、ストレス発散的役割があるのか子どもたちのアクセスは多いです。</p> <p>チャイルドラインおおいの今後の活動として</p> <p>自殺予防を視野に入れた子どもたちの自己肯定感を高めるためのアウトリーチプログラムに取り組みます。このプログラムのキーワードは〈自己肯定・感情表現・傾聴・気持ちを体験する・違いを認め合う〉を体験します。人間関係を見つめ直す機会になるよう、学校や児童育成クラブなどに訪問して「どんなことでも、ひとりで抱え込むと気持ちが、しんどくなってしまいます。あなたのことをわかろうとしてくれる人がどこかにきっといる」という思いを伝えたいです。</p>
<p><b>藤田巨宏</b> <b>委員</b> (大分県社会福祉協議会)</p>	<p><b>キーワード：「子どもの貧困対策を含めた地域の人々のつながりづくり」</b></p> <p>新型コロナウイルス感染症が沈静化しないなか、これまでの支援対象者に加え生活困窮者が急増しており、子育て世帯等の貧困問題が深刻化している。そのため、地域全体で児童や子育て家庭と主体的に関わり、子どもの健全育成や地域での居場所づくりを推進する活動の普及・啓発を行うとともに、支援者（住民、ボランティア団体、民生委員・児童委員等）の現場ニーズを共有し、活動の不安解消や活性化に取り組むとともに、関係機関・団体とのネットワーク構築を図っていく。</p> <p>あわせて、生活に困りごとを抱えた世帯向けに直接的支援を行うとともに、地域共生社会の実現に向けた担い手の養成や育成を進めていく。</p> <p>1 子ども食堂等地域の居場所やネットワークづくりの推進・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①市町村での子ども食堂ネットワーク連絡会の開催</li> <li>②運営者及び支援者への研修会の開催</li> <li>③食堂見学希望者と食堂とのマッチング、立ち上げ相談・継続相談支援</li> <li>④個人や企業からの寄付・寄贈物品の配付</li> </ul> <p>2 生活に困りごとを抱えた子育て家庭への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①生活福祉資金（教育支援資金等）や緊急小口資金等特例貸付の実施</li> <li>②自立支援のための就労に向けたサポート及びネットワークづくり</li> <li>③おおいたくらしサポートによる緊急支援</li> </ul>

委員名	ご意見等
	<p>④フードバンク・フードドライブ等による食糧支援 ⑤無料職業紹介事業（福祉分野）、無料法律巡回相談</p> <p>3 地域福祉の担い手の養成・育成 ①地域共生社会推進のための人材養成研修等</p>
<p><b>室委員</b> (大分県助産師会)</p>	<p><b>キーワード：「孤立させない」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞やメディア等でも、子育て満足度日本一に向けた記事がよく掲載されており、老若男女問わず幅広く県民の皆様に県の取り組みが周知されつつあると感じています。</li> <li>・妊産婦を支える包括支援体制の取り組みとして、大分県では全国に先がけて大分トライアルがスタートしています。その流れの中に産婦検診事業、産後ケア事業が市町村実施のもと、行われています。通常の妊娠、出産、産後でも不安を抱く方が多い中、コロナ渦での不安や悩みは一層増強され、妊産婦はもとよりその家族への支援も大切となってきます。産後ケア事業では宿泊型、デイケア型により支援していますが、今後はアウトリーチ型（訪問型）を行うことで、養育環境の把握や日常生活に即した支援ができ、地域の中で母子が孤立することなく、かつ子どもが健やかに育成できる環境につなげることができるのではないのでしょうか。</li> <li>・「マイ助産師」という言葉があります。患者さんがかかりつけの病院を持つと同様に、妊産婦が選んだ助産師又は少人数の助産師チームが妊娠中～産後のケアを継続して提供することです。妊娠・出産・育児期における心身の変化や仕事・家庭における役割の変化、地域社会とのつながり等において、自分自身と子どもにとって最善の方法を選択し、対応できるよう支援することで、妊娠出産子育てを肯定的にとらえることとなります。さらに肯定的な出産・子育て体験は「また産みたい」という次への出産の希望、すなわち少子化の改善にもつながると思います。</li> <li>・コロナ渦における性犯罪、虐待等が全国に増えているとききます。相談等の窓口も大切です。 被害者にならないよう又、加害者にならないような心の教育生き方教育も成長発達の段階に応じて継続的に行えるといいです。</li> </ul>